

◎2015年3月 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 「非正規で働くシングル女性（35～44歳）のニーズ・課題に関する ヒアリング調査」結果要約

現在、働く女性のうち非正規雇用者の割合は55.8%にまで上昇しており、25歳～34歳を除くすべての年齢層で、非正規雇用者の割合が50%を超えています（総務省労働力調査・2013年）。女性の非正規雇用というと既婚女性のパートタイム労働やフリーターとみなされがちですが、その定義におさまらない、35歳以上の非正規で働くシングル女性が、増加しています。35歳を超えると、若年期に比べて正規雇用への登用も起こりにくく、また親の介護や、自身の病気・体力の低下など直面する課題も増えてくることが考えられます。

そこで、当協会では、35歳～44歳の非正規で働くシングル女性のニーズや課題を明らかにするため、ヒアリング調査を実施しました。

1 調査の目的

35歳～44歳の非正規で働くシングル女性の仕事や生活の状況、直面している課題や困難、ニーズを明らかにするため。また、非正規で働くシングル女性に対してどのような支援が必要か、直面している課題や困難に対する有効な支援は何かを分析し、男女共同参画センターにおける新たな事業プログラムの開発に役立てること。

2 調査対象者

(1) 調査対象者の設定

神奈川県内に在住し、非正規で働いている35歳～44歳のシングル女性

※個人事業主や業務請負など、雇用契約ではない者も含める。

※シングルマザーについては、各種調査データがすでに存在していること、子のいないシングル女性のニーズ・課題と異なることから、本調査の対象外とした。

(2) 調査対象者数

7人

(3) 調査対象者のプロフィール

【居住地域】 横浜市内：4人 横浜市外：3人

【年齢】 35～39歳：2人 40～44歳：3人 45歳～49歳：2人

【学歴】 高校中退・専門学校卒業：1人 短大中退：2人 短大卒：1人 四大卒：3人

【婚姻歴】 あり：0人 なし7人

3 調査期間

2015年2月～3月

4 調査方法

当協会職員および本調査監修者による個別インタビュー調査

※聞き取った内容は、個人や勤務先が特定されないよう加工し、インターネットでの公開はしない条件で、本人の了解を得て『調査報告書』に事例として掲載。

5 監修者

飯島裕子氏（ノンフィクションライター、武蔵大学社会学部非常勤講師）

6 調査項目

- (1) 現在の仕事の状況
- (2) これまでの仕事の状況
- (3) 現在のくらしの状況、家族との関係
- (4) 将来の希望等

7 ヒアリング調査結果の概要

- (1) 現在の仕事の状況
 - ・ 7人の雇用形態は、パート、契約社員、非常勤職員、アルバイト、1人は調査時に無職であった。このうち、障害者雇用は2人だった。
 - ・ 所定労働時間は、週30時間（1日6時間×週5日）が3人、フルタイム勤務（1日7時間程度×週5日）が3人だった。
 - ・ 手取り月収は10万前後が3人、18～20万が2人、その他が2人である。
 - ・ 積極的な理由から非正規の仕事についている者はいなかった。
 - ・ 現在の勤務先での正規雇用へ転換の可能性については、ない、もしくは低い。
 - ・ 改正労働契約法の5年雇止めについて不安感を持つ者もいた。
 - ・ 資格取得者は、将来、正規雇用の可能性やあるいは非正規でも比較的時給の高い仕事につける見通しをもっていた。
- (2) これまでの仕事の状況
 - ・ 7人中、5人には正規雇用の経験があった。
 - ・ 就職氷河期以前に就職した2人は初職から正規雇用であった。就職氷河期に卒業した3人は、初職は非正規雇用であったが、正規雇用を目指して転職活動を行うなどして、正規雇用された経験を持っていた。
 - ・ 学校を中退した2人については、正規で雇用された経験はない。
 - ・ 7人の勤め先の中で、正規雇用への転換について制度化されているところはなかった。
 - ・ 正規雇用経験者は、長時間労働や業務負荷の重さ、パワーハラスメントや嫌がらせ等などにより、体調を崩し休職や退職（解雇）に追い込まれた経験をもっている。正規雇用で働くことが、安定した生活への解決策とはなっていなかった。
 - ・ 対象者は、同居する親などから、「転職が多い」「すぐに辞めるから（ダメだ）」といった批判を受けがちであった。
 - ・ 正規雇用を目指して就職活動に取り組んだり、職業訓練に通うなど自己研鑽している者が多い。
- (3) 現在の暮らしの状況
 - ・ 女性の就労・労働に関する支援機関や、男女共同参画センターでの事業に参加するなど、社会資源を利用している者が多い。
 - ・ 女性に限定しない支援としては、若者就労支援機関、労働組合、障害者向け就労支援機関、パーソナルサポートサービス、よりそいホットライン、などが利用されていた。
 - ・ 7人全員に、精神科・心療内科等の受診の経験があった。多くは、職場でのストレスから心

身に症状が出たことがきっかけとなって受診している。

- ・ また、年齢的な課題（疲れやすい、病気への不安）を感じ始めている。
- ・ 勤務先の定期健康診断を受けている者が多い。

(4) 将来の希望

- ・ 7人中6人が、現在ついている非正規の仕事・働き方を続けるのではなく、より安定した仕事につきたい、あるいは正規雇用への転換を望んでいる。
- ・ 7人中5人が、親の持ち家（や親せきの家）で暮らしていた。親の介護が必要になったときに、非正規雇用のままで、介護休暇を取れるのか不安に感じている者もいた。
- ・ 心配なこと、困っていることとして、「孤立していること」、「人間関係が苦手」、「コミュニケーションが苦手」、「この先どんな仕事をしていけばいいか」、「自分の老後がどうなるか不安」、「子どもを産みたかった」などがあげられた。
- ・ 社会の中で「自分のような存在はないものとして扱われている」、「所属がないように感じる」といった意見が複数あった。同じような立場の人と会いたい、同じような立場の人がどんなふうに暮らしているのか知りたいという声も多い。

(5) 子ども～学生時代のこと

- ・ 幼少時や学生時代にいじめられた経験を持つ者や、締め付けの厳しい学校時代について嫌な思いを抱いている者が7人中6人であった。

(6) 欲しい支援

- ・ 欲しい支援としてあげられたことをまとめると、以下のようになる。
 - 同じような年齢・立場の人に限定した講座
 - （横浜市男女共同参画センターで開催されている）「ガールズ編 しごと準備講座」や「再就職準備講座 トラヴァイエ」のような、就労についての連続講座
 - コミュニケーションについての講座
 - 女性の健康課題に対応した講座
 - “バリキャリ” じゃなくても相談できる、キャリア相談
 - 同じような立場の人が経験をわかちあえるような場、どんなふうに暮らしているのかがわかる事例集

8 男女共同参画センターにおける支援の方向性

(1) 非正規シングル女性に必要な支援

- ・ 非正規で働く35歳以上のシングル女性に必要な支援は、以下の三点と考える。この三点はそれぞれ単独ではなく、組み合わせた形で実施されることが必要である。
 - ①【情報】課題解決に役立つ具体的な情報
 - ②【なかま】同じ立場の人とのつながり、経験・知恵の共有、社会的孤立を防ぐ
 - ③【ケア】心身のケア、メンテナンス、回復・リハビリ

(2) 男女共同参画センターにおける支援事業

- ・ 以下のような支援事業が考えられる。
 - 講座やセミナー、ワークショップ、個別相談、サポートグループなどの事業手法を組み合わせ、対象者を限定した一連のプログラム

- 参加したいときに参加できる、おしゃべり会やサロン
- 来館が難しい当事者にも届けられるような、交流サイトや事例集などの媒体(メディア)の作成。(非正規で働くシングル女性は、無業者とは異なり、時間的に余裕があるとは言えない。また、交通費や受講料の捻出が難しい者が多いことも推測されるため。)

(3) 支援事業を実施する意義

- ・ 非正規で働くシングル女性の存在は社会的に認知されておらず、課題が見えづらい。男女共同参画センターにおいて非正規シングル女性を対象とした事業を実施することは、その存在や課題を顕在化することにつながる。
- ・ 非正規で働くシングル女性の社会的孤立や貧困を防ぐためのモデル事業を開発し、示すことも意義の一つである。

当協会では、本ヒアリング調査結果を元に、非正規シングル女性を対象とした事業を開発・実施していく予定である。

< 報告書についての問合せ先 >

(公財) 横浜市男女共同参画推進協会 事業企画課

電話 : 045-862-5141

E-mail : kikaku@women.city.yokohama.jp